

2



風水害編



風水害から身を守る



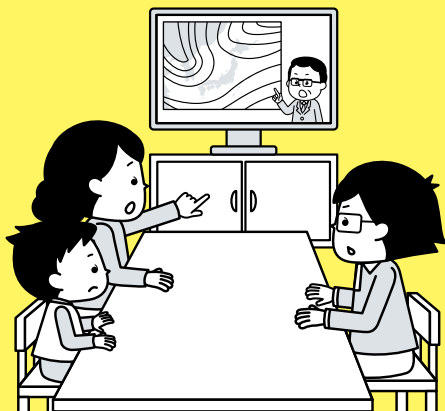
台風や豪雨などの風水害は、地震と違い予測ができるからと安易に考えてはいけません。

油断せず、日ごろの備えを十分に行うことが大切です。

風水害対策の基本は情報収集から!

大雨や台風から身を守るためには、情報の収集が大切です。

注意が必要なときにはテレビ、ラジオ、気象庁のホームページなどで最新の情報を収集するようにしましょう。



台風

台風はいろいろな災害を引き起こします。暴風、豪雨、地滑り、土石流、洪水などです。

雨や風が強くなってから対策を始めるのは危険が伴うので台風の接近が予測されたときには、早めに準備しましょう。



風の強さと想定される被害

平均風速 (毎秒)	風の強さ (予報用語)	影 響
10～15	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。
15～20	強い風	歩くことができない。転倒する人も出る。 看板やトタン板が外れ始める。
20～25	非常に強い風	何かにつかまっていないと立ってられない。
25～30		車は普通で速度で運転するのが困難になる。
30～	猛烈な風	屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。多くの樹木が倒れる。

※気象庁の資料より抜粋

集中豪雨



集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、最近ではゲリラ豪雨とも呼ばれています。気象情報や雨の降り方などの現象から判断し危険を感じたら、早めに避難するようにしましょう。

※注意報・警報の基準は地域によって異なります!

避難の時期を逃さないためにも、自分の住む地域の地理的特徴や、よく出される予報被害情報などを知っておくことが大切です。

特別警報

集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った場合に発表されます。

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨等が予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が高まっています。
- ただちに命を守る行動をとってください。

雨の強さと想定される被害

突発的かつ局地的な集中豪雨に関する情報は入手することが困難です。ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。

1時間の雨量	予報用語	降り方・想定される被害
10～20	やや強い雨	ザーザーと降り、地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長く続くときは災害への注意が必要。
20～30	強い雨	どしゃ降り、傘をさしても濡れてしまうような雨で、側溝や下水、小さな河川があふれ、小規模のがけ崩れの心配もある。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。山崩れ、がけ崩れなどが起きやすくなり、危険地帯では避難準備が必要。
50～80	非常に強い雨	滝のように降り、水しぶきで視界が悪くなります。中小の河川は「はん濫」し、土石流など水害発生の危険性が高まる。
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

※気象庁の資料より抜粋

風水害への日ごろの備え

まず、みなさんが やること!

住んでいる地域の状況を
確認する

- ①住んでいる場所が洪水や川の
氾濫による浸水のおそれがないか、町のハザードマップで
「浸水想定区域」を確認してお
きましょう。
- ②浸水想定区域に該当する場合
は、避難行動の考え方や避難
場所を確認しましょう。

屋外の備え

台風や豪雨は事前に備えがで
きる災害です。

普段から家の周囲の危険箇所
を点検しておきましょう。

自宅周辺の 安全対策

屋根瓦やトタン
めくれたり壊れて
いないか。

物干し竿
飛ばされないよう下に
降ろしておく。

雨戸やシャッターの
ない窓
割れたガラスの飛散防止
のためにカーテンを閉め
たり、窓に飛散防止フィル
ムを張る。

庭木
飛ばされたり、倒れない
ように固定する。

テレビアンテナ
錆びたりゆるんだりして
いないか。

雨どい
枯葉や砂がつまって
いないか。

雨戸やシャッター
ちゃんと閉まるか点検補修を。

植木鉢
強風で飛ばされそうな
ものは家の中へ。

窓
ひび割れや
がたつきはないか。

プロパンガス
固定されて
いるか。

屋内の備え

- 1** 家の周囲を一周し、飛ばされそうなものは室内に取り込むか、飛ばないようにしっかり固定する。



- 2** 戸や窓のすきまに幅広のビニールテープを貼る。雨戸を閉める。



- 3** 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを用意する。予備の電池も忘れずに。



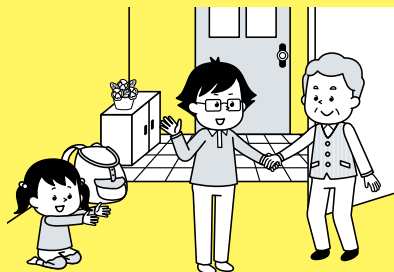
- 4** いつでも避難できるように非常持出品を用意する。



- 5** 家事道具や食料品などをできるだけ高い場所へ移動させる。



- 6** 高齢者や乳幼児・病人の方などは安全な場所へ移動させる。



絶対にしてはいけないこと!

- 雨で増水した用水路や川の見回りは道路との境界がわからなくなり危険です。絶対にやめましょう。
- 屋外での作業は、暴風や突風にあおられて転倒する危険がありません。絶対にやめましょう。

※日本気象協会の資料より抜粋



用水路の見回り



川の見回り



屋外の作業

避難するときは

洪水から避難する場合、特に足元には十分注意し、子どもやお年寄りからは目を離さず、手を引くなど安全を確保しましょう。早め早めに対応することが重要です。

⚠ 洪水から避難するときの注意点!

1 はき物

はだしや長靴は禁物。ひもでしめられる運動靴をはきましょう。



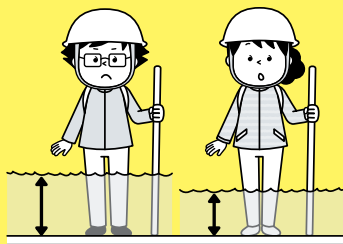
2 ロープで結んで避難

お互いの体をロープで結んではぐれないようにしましょう。



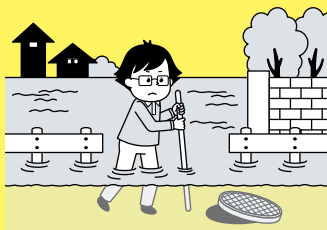
3 深さに注意

歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmです。水の深さが腰まであるなら無理は禁物。高所で救援を待ちましょう。



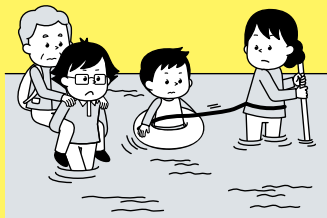
4 足元に注意

水面の下には、マンホールや側溝などがあります。長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩きましょう。



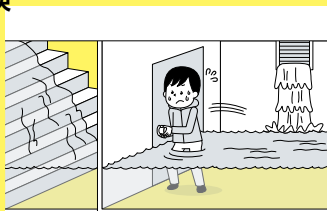
5 子供や高齢者を安全に

高齢者や病人などは背負うなど、安全を確保して避難しましょう。



6 地下街、地下鉄、地下室は危険

大雨時、道路が冠水すると地下街等に一気に水が流れ込んできます。地下への浸水が予想される時には早めに避難しましょう。



水害(河川氾濫)から避難するときの心得

- ①夜に大雨が予想されているときは、夕方までに避難する。
- ②冠水している道は極力通らない。
- ③外に避難するのが危険なときは、建物の高い場所に避難する。